

I 研究主題

研究主題 **思考力、判断力、表現力の育成**

～少人数を活かす授業の創造～

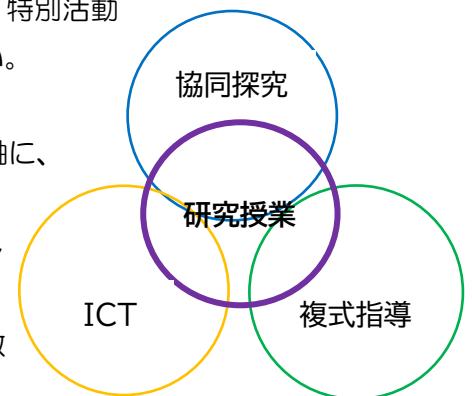
ICTの活用・協同的探究学習・複式学級の指導の3つの要素を取り入れた研究授業を行う。

II 主題について

本校は市内でも屈指のPC活用校である。少人数の環境ゆえにICT活用が低学年段階から盛んであり、1年生からローマ字入力をしている。授業での活用はもとより、行事・特別活動での活用をはじめ、ICTなしの学校生活は成り立たないといつてもよい。

ここ数年、授業研究では、本校自慢のその「ICT活用」と加古川市の「協同的探究学習」を融合させた「加古川型スマート探究学習」を基軸に、思考力、判断力、表現力の育成に向けた取り組みを進めてきた。

ただ、児童数の減少はとどまらず、来年度から複式学級がスタートしていくことになる。2年後には複式学級が2つに増えることになる。この状況を踏まえ、複式学級を見据えた取り組み、そのなかでも少人数を強味に換え、「少人数を活かす教育」を合言葉にして、新たな研究をスタートさせることにした。

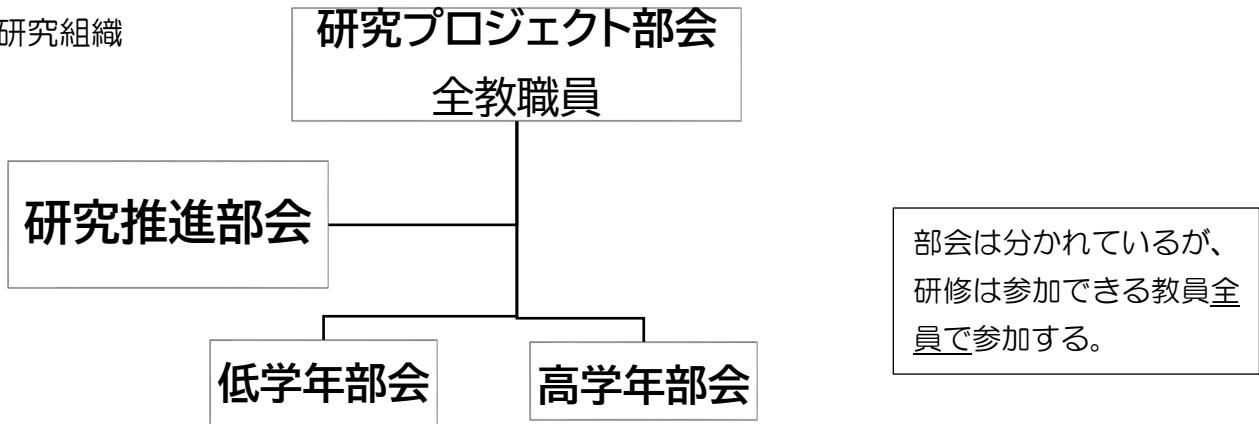


副題を「少人数を活かす授業の創造」とし、「ICTを活用した個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体化させながら、「少人数の強味が活きる授業づくりとはどうあるべきか」、さらには複式で異学年同一教室授業で必要となる「子どもたちが自ら学びを進める『自由進度学習』をどのように進めればよいか」を探っていくことにした。また授業実践以外にも複式学級を見据えた研究として「異学年合同授業」と「教科担任制」を今年度より先行的に実施し、その成果を探っていくことにした。

★計画案

学期	研修内容	
1学期	<ul style="list-style-type: none">ICTの活用方法（オクリンクやクラスルームの使い方）の研修加古川市教育ポータルサイトを見て、ICTを活用した授業の流れをつかむ。授業検討会（指導案の書き方・授業の流れなど）指導案作成（水・金曜日の放課後に行う）自由に参観week①…授業見学（空き時間を利用しての学び合い週間） <p>※夏休み 複式学級先行校視察（丹波篠山市へ）市教委と連携</p> <p>※4月参観日学校運営保護者説明会。複式学級の見通し、教科担任・合同授業を説明</p>	
2学期	<ul style="list-style-type: none">研究授業実施自由に参観week②…授業見学（空き時間を利用しての学び合い週間）	
3学期	<ul style="list-style-type: none">自由に参観week③…授業見学（空き時間を利用しての学び合い週間）スクールガイドの作成（学び舎の軌跡） <p>※1月 複式学級先行校視察（三木市へ）市教委と</p> <p>※2月 複式学級保護者説明会。成果と見通しを説明</p>	カリキュラムの整理・作成 (複式学級に向けて)

★研究組織



★自由に参観 week

学期ごとに、ある1週間を「(教師の)自由に参観 week」として設定し、お互いの学び合いができるよう、空きゴマを利用して参観する。

- ・1週間の全授業の時間割表を作成し提示。テスト等を行う授業をそこにはあげない。
- ・参加した授業については、付箋にコメントを書いて必ず渡す。
- ・各自に寄せられたコメントは、シート一覧にまとめ、提出。全体で共有する。

<1回目の参観 week を終えての感想>

- ・感想シートがとてもよかったです。自己のふりかえりにもなり、書いているときに自分への気づきに繋がった。
- ・ふりかえりも付箋でよかったです。学期に1回くらいの割合、ちょうど行事もひと段落した落ち着いて学習できる時期に継続して行うのがよい。(年間3回くらい)
- ・期間が1週間と限定されていたので、単元によっては「見てもらうのが申し訳ないな」というところもあった。1か月くらいの期間をもつか、見てもらってよい単元をお知らせする方法もあるのかなと思う。また、担当の先生の予定表を作成する負担が大きかったと思うので、スプレッドシートやgoogle カレンダーを共同編集できたら負担軽減になる。
- ・全体での参観可能な時間割表の作成がよかったです。それがあれば行きやすい。また付箋のコメントもたくさん書かれておりフィードバックできてよい。
- ・どの先生も積極的に参観されていた。どの先生も授業に工夫があり、志方東のチーム力は強み。学習の見通しが持てるワークシートを活用したICTの活用、個別進度学習、実物の手本の提示、板書のまとめ方、ペアの話し合い、ふりかえりなど、他の先生の授業を見て、取り入れられるところは取り入れたらいい。
- ・研究授業とは違う普段の授業に近い形を見ることができ、授業づくりに参考になるところが多く、とても学びのある期間だった。
- ・まずは他の先生の授業を見ることが「これからにつながる手がかり」になる。参考になること、とりいれてみたいことが見つかった。見たことで尋ねたり質問したり、それがOJTにつながります。「見る」機会をこれからもつくりていきたい。ただ、みなさんにとって負担のない範囲で。
- ・いい緊張感を持って授業を行うことができた。また、他の先生方に見てもらえるということから、教材研究をいつもより深く行う習慣がついた。そして、様々な先生方からアドバイスがもらえ、自分はとても嬉しく新鮮だった。自分自身の授業に自信がなかったが、自信につながり、他の先生方の授業を様々な視点から見ることができ、とても自分にとって有意義な時間になった。

III 研究について

複式学級を見据えたなかで、今年度から「合同授業」と「教科担任制」を取り入れた研究を進めた。

① 学年をあわせた「合同の授業」の実施

3・4年…道徳（3年教室で）・体育・図工、音楽・総合的な学習

※1・2年の体育、5・6年の体育 1・2・3年図書（音楽・学活の一部）

※授業ではないが2学期より「異学年交流給食」（日替わり組み合わせ）を実施

② 「教科担任制」の実施（主に3年生以上で）

A教師 5・6年 算数・理科

B教師 3・4・5・6年 外国語の授業

C教師 3年算数・理科、4年理科

D教師 3・4・5・6年 社会

A 教員のふりかえり

○体育・道徳・総合などを合同ですることで集団が保障できた。合同で教えられる教科・単元は、今後も継続して取り入れるべき。

○教科担任制をすることで教科の系統性をみることができた。

○教科担任制を取り入れることにより、児童だけでなく教師側も複式学級を見据えて取り組みを進めることができた。

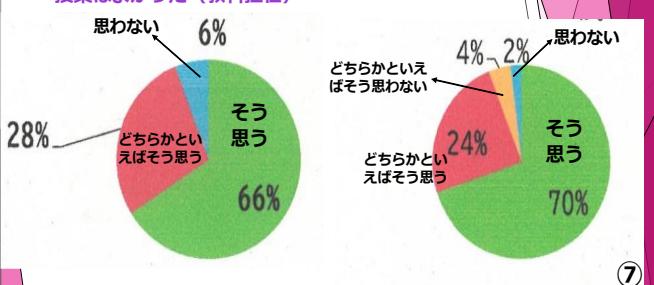
○教科担任制になったことで、児童らが様々な先生と関わる機会が多くなり、子どもたちにとって居場所が増えたように感じる。担任以外の大人と関わる機会を増やすことができた。

○複式を視野に入れ、「自ら課題を見つけ解決していく学習を行う」ことができるよう、自由進度学習を取り入れた。先進校の実践を参考にしながら、本校にあったスタイルをみんなで創り出していった。

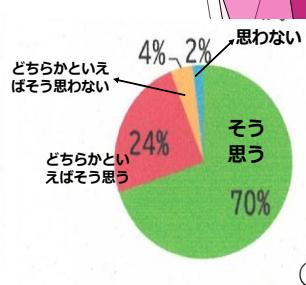
B 児童のふりかえり

C 児童のふりかえり（児童アンケートより）

「…によってちがう先生の授業はよかつた（教科担任）



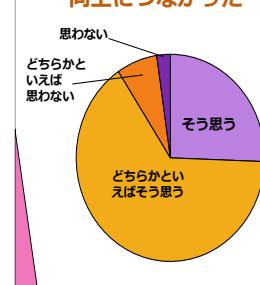
「ちがう学年との授業をがんばれた（合同授業）



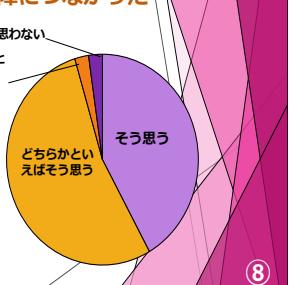
C 保護者のふりかえり

D 保護者のふりかえり（学校評価アンケートより）

「教科…担任は学力の向上につながった



「異学年合同授業は学習集団保障につながった



③授業研究

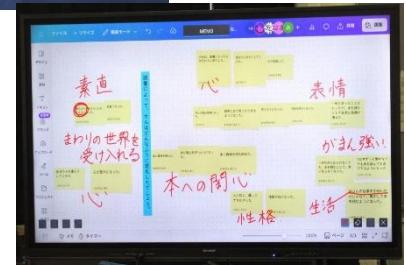
A 社会科（3～6年） 「教科担任制とICT活用を組み合わせた授業」

社会科では、3年生から6年生までの教科担任制を生かし、学年間のつながりを意識した授業改善に取り組んできた。その一環として、Googleスライドを活用した学習を通して、児童が資料や写真、グラフを整理・比較しながら自分の考えをまとめる姿が多く見られるようになった。主体的に学習に取り組む態度の育成にもつながっていると感じている。また、教科担任が児童の学びの積み重ねを把握できるため、前学年の学習を踏まえた指導や個に応じた助言が行いやすくなった。



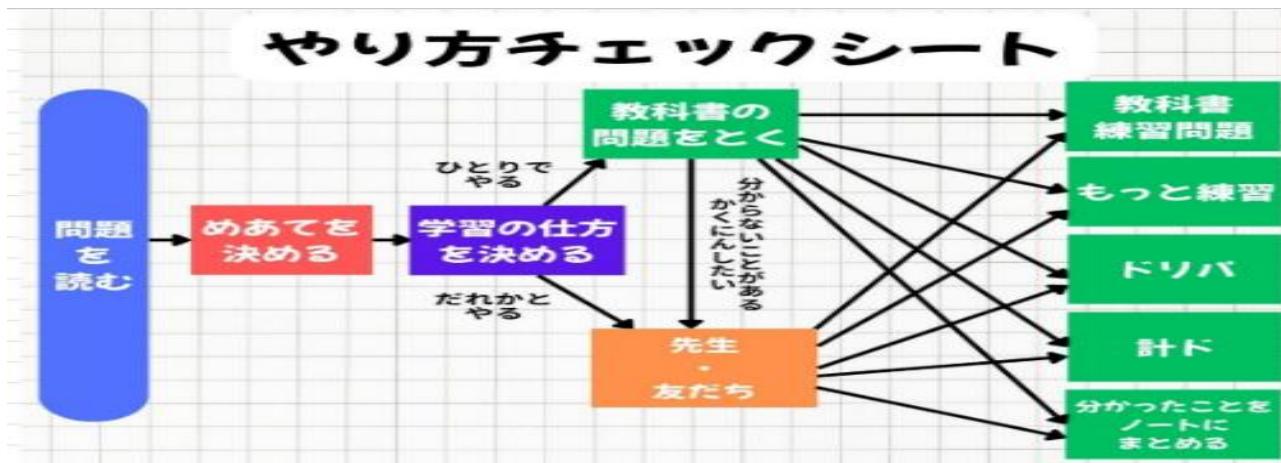
B 6年 国語科 「ぼくのブック・ウォーマン」（物語文）

国語科「ぼくのブック・ウォーマン」の学習では、PCを用いた意見交流を行い、主人公やブック・ウォーマンの思いについて考えをまとめた。他者の意見を取り入れることで、多角的な視点を養い、思考を深めることができた。授業の終わりには、「読書は知識を得るだけでなく、想像力を育て、心を豊かに耕してくれるもの、そして自分の生き方にもつながっていくものだ」ということに、子どもたち自身が気づくことができた。自分たちの力でその大切さを見つけ出した姿に、とても頼もしさを感じた。



C 3年 算数科 「1万をこえる数」

算数科「一万をこえる数」の学習では、「学びに向かう力」を培うために、自由進度学習を取り入れて学習を進めた。授業開始時にみんなで学習問題を確認し、課題を見つけていく。その後は、クラスルームで共有しているチェックシートをもとに自分で学習方法を決め、45分の授業内に課題を解決できるようにしていく。授業の最後には、小テストを行い、自分の選択した学習方法で力につくことができたかを確認する。教科書を読んでもすめたり、友だちや教師と確認しながらすすめたり、どのような方法が自分に合うのか、「学び方を学ぶ」きっかけとなった。



D 6年 外国語科 「日本の魅力を伝えよう」

6年生では、2学期に自分の行きたい国の魅力を伝えるために、発表を行った。そこで、今度はニュージーランドの子どもたちに日本の魅力を知ってもらうという目的でオンライン国際交流を実施した。子どもたちはどうすれば日本の魅力を伝えられるのか試行錯誤をしながら準備を重ね、当日プレゼンテーションを行った。この交流を通して異文化への理解が深まり、日本の魅力を英語で発信できたことが、児童の自信につながった。

